

日本海東縁歪み集中帯の地殻変動：これまでの知見と新たな稠密 GPS 観測

Crustal deformation of the strain concentration zone along the Eastern Japan Sea margin

ひずみ集中帯 GPS 観測グループ 鷺谷 威 [1]

Takeshi Sagiya GPS Observation Group for the Strain Concentration Zone[1]

[1] -

[1] -

日本海東縁歪み集中帯は、明治時代以来の三角測量や 1990 年代以降の GPS 観測によって、顕著な東西短縮を示す変形集中帯として認識されてきた [例えば橋本 (1990), Sagiya et al. (2000)]。本講演では、この地域の地殻変動の特徴について、過去の測地観測に基づく研究結果のレビューを行うとともに、未解決の問題点を整理する。特に、通常時に見られる変形が弾性的か非弾性的かという点は、この地域の地震発生ポテンシャルを考える上で重要な問題である。また、地表において見られる顕著な変形集中を引き起こすためには、地殻深部においても変形集中のメカニズムを考える必要がある。

この地域の地殻変動の詳細を明らかにし、地震発生ポテンシャルの評価に資することを目的として、文部科学省の「ひずみ集中帯の重点的調査・観測」の一環として、2008 年度から稠密 GPS 観測を開始した。本観測では、新潟県糸魚川市・上越市・十日町市・南魚沼市・柏崎市・長岡市に約 50 点の観測点を設置し、年 1 回のキャンペーン観測を 5 年間実施する予定である。本講演では、観測の概要および 2008 年 11 月に実施した最初のキャンペーン観測の結果について発表する。